

事項	花き栽培ハウスにおけるトマト黄化えそウイルス（TSWV）防除対策実施上の留意点		
ねらい	TSWVの発生が本県で確認されて以来、徹底した防除対策を指導してきているところであるが、なお大きな被害を受けているハウスも見られる。そこで、TSWVが継続して発生しているハウスにおいて各種防除対策を実施し、効果を上げた事例から、防除対策実施上の留意点を示し、併せて得られた知見を参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 TSWV発生ハウス群で行った防除対策と留意点等（平成14～15年に継続して実施）</p> <p>(1) 発病株の徹底した抜き取りと処分</p> <p>ア 発病株は栽培期間中を通じて発生するので、抜き取りは根気強く、長期に渡って行う。</p> <p>イ 抜き取った発病株は、アザミウマが逃げ出す前に速やかに土中埋没などの処分を行う。</p> <p>(2) 殺虫剤のローテーション散布</p> <p>ア 約1週間間隔で散布を行う。</p> <p>イ 冬期間に作物がある場合には、継続して散布する。</p> <p>(3) 粘着トラップ法によるアザミウマ類の密度把握</p> <p>青色粘着トラップを使用し、2週間程度で交換する。</p> <p>(4) 総合的に防除対策を行う。</p> <p>上記(1)～(3)の他にを行う対策</p> <p>ア ハウス開口部への防虫ネット（1mm目）設置</p> <p>イ ハウス内外の徹底除草</p> <p>ウ 遠隔無病地での育苗</p> <p>エ 作付け終了後のハウス密閉高温処理（地表面をビニールで被覆）</p> <p>2 実証試験実施によって得られた知見</p> <p>(1) キク及びトルコギキョウはTSWV感受性が高く、発生が多かった。</p> <p>(2) ソリダゴ、宿根アスター、ブプレラムは多発生しているハウス内で同時期に栽培されていたが、発病は認められなかった。</p> <p>(3) トルコギキョウの病徴は、キュリマザイクウイルス(CMV) によるえそモザイク病に酷似し、時に判別が困難なことがある。</p>		
期待される効果	TSWV発生ハウスで根絶を目指した総合的な防除対策を実施する上で、参考となる。		
利用上の注意事項	<p>1 TSWV対策は感染植物と保毒虫の除去であり、早期発見と早期対策の効果が高い。</p> <p>2 農業を使用する場合は、必ず最新の「農業登録情報」(<a href="http://www.jppn.ne.jp/nouyaku/">http://www.jppn.ne.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</p>		
担当	青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり 生産技術部・普及技術部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成14～15年度 フラワーセンター21あおもり花き試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 各ハウスの主要作付け品目と抜き取り数の推移

(平成14～15年 青森農林総研フラワーセ)

ハウス番号	平成14年						平成15年					
	1作目	抜取数	高温処理	2作目	抜取数	(冬作) 抜取数	1作目	抜取数	高温処理	2作目	抜取数	
ハウス1	キク 宿根アスター	全株 0	○	キク	収穫時 散見	コマツ他 0	トルコ	0	○	トルコ	0	
ハウス2	スターチス キク	0 1,264	○	スターチス	16	→	0	→	0	宿根アスター トルコ	0 0	
ハウス3	ソリダゴ	0		トルコ	44	カンパ他	0	→	0	トルコ	0	
ハウス4	トルコ	338	○	トルコ	0	→	0	→	0	キク他	0	
ハウス5	トルコ	386	○	宿根アスター ソリダゴ	0 0	→	0	→	0	→	0	
ハウス6	ブプレ ナデシコ キク親株	0 0 全株		→	収穫時 散見		ミニトマト	0	→		0	
					キク親株*	0	→		全株			

(注) 1 トルコ：トルコギキョウ、ブプレ：ブプレラウム、カンパ：カンパニュラ  
 2 表中の→は栽培継続を示す  
 3 \*は新規導入株だが、7月31日TSWVの病徴確認したため、全株廃棄した

表2 平成14年1作目ハウス2(キク)及びハウス4(トルコギキョウ)の抜き取り経過

(平成14年 青森農林総研フラワーセ)

半旬	5月		6月						7月						8月		合計	抜取率 (%)
	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2		
キク	.61	0	389	128	23	358	0	0	163	129	0	13	—	—	—	—	1,264	76.1
トルコギキョウ	72	5	10	17	46	2	31	25	6	25	52	43	1	0	0	3	338	3.2

(注) キク、トルコギキョウとも開花(収穫)期まで調査を継続した

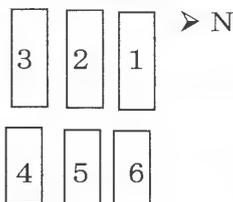
表3 青色粘着トラップ法によるアザミウマ類の推移

(平成14～15年 青森農林総研フラワーセ)

ハウス番号	栽培品目	アザミウマ種名	トラップ設置期間													
			H14							H15						
			7/2 ~7/16	8/8 ~9/3	9/3 ~10/1	10/1 ~10/29	10/29 ~11/26	11/26 ~4/8	4/8 ~5/9	5/9 ~6/3	6/3 ~7/9	7/9 ~7/31	7/31 ~8/20	8/20 ~9/12		
ハウス1	キク	シロキイロ その他	-	15.2 784.7	25.5 344.1	14.9 232.4	0.3 0.3	-	-	-	-	-	-	-	16.7 386.3	11.0 563.7
ハウス2	スターチス	シロキイロ その他	-	-	-	-	-	-	0.0 0.0	0.0 2.7	4.0 7.0	5.3 33.3	-	-	-	-
ハウス3	トルコギキョウ	シロキイロ その他	-	8.9 71.9	7.4 20.6	1.0 5.1	0.5 0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハウス4	トルコギキョウ	シロキイロ その他	-	-	-	-	-	-	0.0 7.3	1.0 2.3	1.7 20.0	6.3 78.7	-	-	-	-
ハウス5	宿根アスター	シロキイロ その他	21.0 5.0	5.7 63.9	11.7 58.3	4.9 24.1	0.0 0.0	-	0.0 3.0	0.3 0.7	7.0 30.3	2.3 68.0	1.3 77.0	2.3 44.0	-	-

(注) 表中の数字は、トラップ1枚あたりの平均誘殺数(期間中の累積値)

(参考) ハウス見取り図



(注) 1 ハウスの周囲は水田、ダイズ畑などで、TSWVの寄主は栽培されていない。

2 平成14年5月の防除対策開始時のTSWV発生程度はハウス1、2のキクで多発生、ハウス4、5のトルコギキョウで中程度の発生。